

テフコ青森株式会社（青森県）

～ オンリーワン技術を武器に世界市場に進出 ～

1. 独自技術「電着画像技術」で市場を拡大

テフコ青森株式会社が腕時計文字盤の「時字」の製造工程に革命を起こしたのは、電気分解形成法を応用した「電着画像技術」により転写する方法である。文字盤の自由なデザインを可能としたこの技術は、世界中のデザイナーの注目を集めた。

その後、この技術を応用した最薄30ミクロンのフィルム銘板「テフコミラー」の開発により、高級自動車のエンブレム、薄型テレビやパソコンなど高級家電のロゴマークラベルとして、製品に「高級感」という付加価値を添えている。

2. 弘前から世界へ

「金はなくともとにかく特許申請はする」と語る中山社長のポリシーは、加工を下請けするのではなく、自社で新しい製品を開発し製造販売することにある。創業時から開発技術を積極的に特許出願、自社技術を守ってきた。世界市場を相手に取引するために特許は必須と考え、国内はもちろん輸出先である米国、ドイツ、スイス、香港、中国、台湾、韓国の世界7ヵ国に出願し、オンリーワン技術を武器とした事業展開を行っている。

特許取得の目的は、権利侵害による将来的な問題回避のためであるが、その積極的な特許戦略のおかげで、製品開発を安心して進めることができるとともに、同業他社の参入を防いでいる。

過去、特許の権利範囲の解釈の問題で、海外企業から同社の製品納入先に対して提訴、係争となったことがあるが、ユーザ保護のために努力し勝訴した。

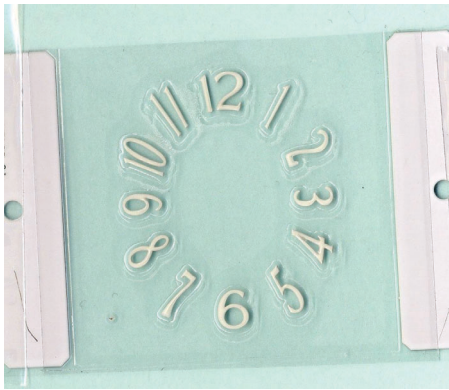
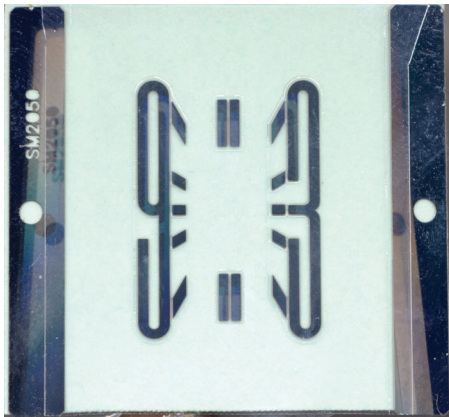
中山社長の特許重視のポリシーがユーザとの信頼関係を強固なものとしている。

3. 地元の発展のために

弘前で創業するに当たり、青森県や青森テクノポリス開発機構などの助成支援を受けた。中小企業にとってこのような支援体制は大変貴重であったとのこと。

人件費が安いからといって全て中国で生産したら、技術が流出することは間違い無い。生産ラインのコア部分は弘前に置き、製造のノウハウが社外・海外へ流出することを避けるなど、徹底した知財管理で自社技術を守っている。また、国内に生産拠点を置くことで地元の雇用確保などにも貢献している。

【保有権利に基づく製品例】



テフコミラー
(左図時計用の拡大写真)

<会社概要>

名称及び代表者名	テフコ青森株式会社 代表取締役 中山 廣男
本社所在地	青森県弘前市大字藤野1-2-2
創業	1988（昭和63）年
資本金	3,240万円
従業員数	73名
主要製品	電気分解形成法による時計用文字盤時字の開発・製造、電気分解形成法によるフィルム状銘板の開発・製造、腕時計用電着指針の開発・製造
電話	0172-37-2244
URL	(準備中)